

1-2. 交通流動の変化

1) 東海北陸自動車道及び周辺道路ネットワークの交通量及び交通流動の変化

<交通量の変化>

- ・ 東海北陸自動車道の交通量は前年に比べ、ほとんどの区間で10%以上増加しました
- ・ また、接続する東海環状自動車道は増加傾向で、並行する北陸自動車道は減少傾向でした。

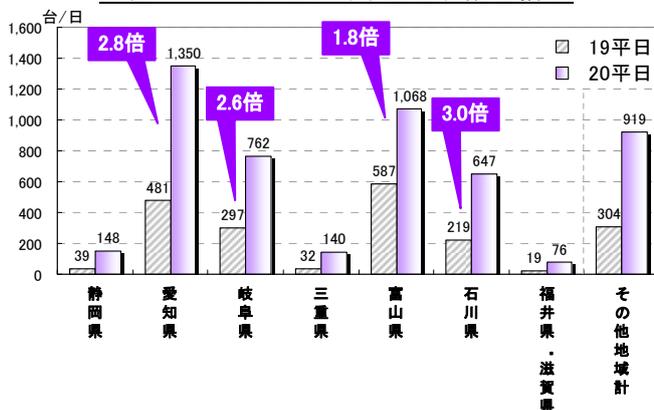
<交通流動の変化>

- ・ 東海北陸自動車道を利用する交通のうち、約800台が北陸自動車道より転換しました。
- ・ 東海北陸自動車道を利用する交通の車籍地構成は、愛知県や岐阜県、富山県や石川県が増加しました。

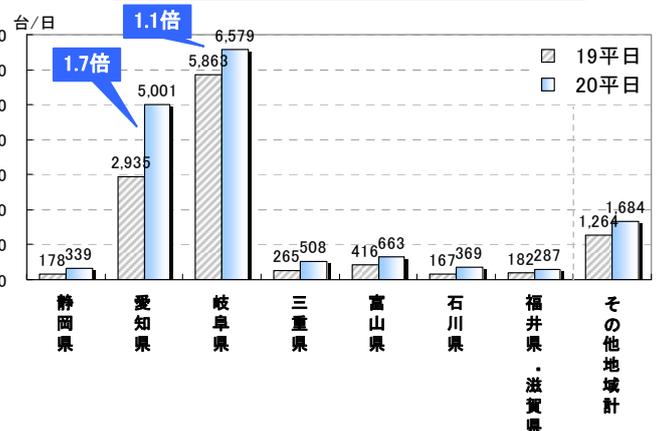
北陸自動車道から東海北陸自動車道へ交通が転換



五箇山IC 白川郷IC間利用車籍地構成



郡上八幡IC 美並IC間利用車籍地構成



出典:

<交通量の変化>(2007年10月と2008年10月の比較)

高速道路はIC間の日平均交通量、一般有料道路(東海環状道、安房峠道路)は全線の日平均交通量、一般道路は交通量調査結果にて作成

<交通流動の変化>(2007年11月6日(水)及び2008年10月28日(火)の交通流動調査結果より作成)

名神高速大垣・関ヶ原間および北陸道美川・小松間を通過した交通の減少量と、東海北陸道郡上八幡・美並間および五箇山・白川郷間を通過した交通の増加量から転換交通量を算出

2) 飛驒地域の周遊交通（平日・休日）

- ・ 平日、休日ともに乗用車（営業車を除く）およびバスの周遊交通は増加（休日：乗用車72倍、バス8.4倍）しています。（図1、2参照）
- ・ 白川郷の平均的な滞在時間は約2時間、高山市では約4時間（ICからの移動時間込み）となっています。
- ・ 車種別の車籍地構成をみると、平日、休日ともに、関東、関西方面からの車籍の割合が増加しており、当地域への訪問車は広範囲に及んでいることがわかります。（表1参照）

周遊交通は増加（休日：乗用車72倍、バス8.4倍）

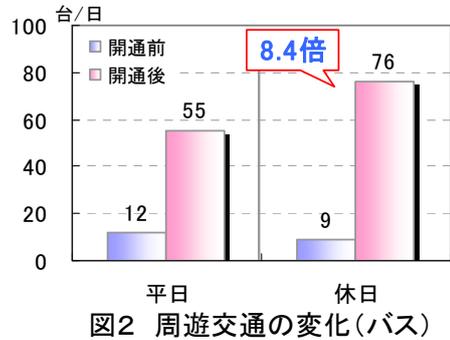
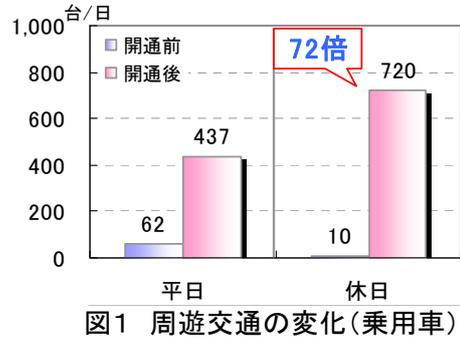


表1 周遊交通の変化(車種別、車籍地構成)

	車種別・車籍地構成	
	乗用車（営業車を除く）	バス
平日	<p>周遊(平日)乗用車※営業車除く</p> <p>開通前(平日)N=62 開通後(平日)N=437</p>	<p>周遊(平日)バス</p> <p>開通前(平日)N=12 開通後(平日)N=55</p>
	<p>周遊(休日)乗用車※営業車除く</p> <p>開通前(休日)N=10 開通後(休日)N=720</p>	<p>周遊(休日)バス</p> <p>開通前(休日)N=9 開通後(休日)N=76</p>

開通区間周辺の観光地近くのIC間の周遊交通の動向を把握するため、開通前後それぞれのデータから「五箇山IC」「白川郷IC」「飛驒清見IC」を同日で3回以上出入利用した車両を抽出

※) 休日：開通前 平成20年6月1日(日) 開通後 平成20年8月24日(日)
平日：開通前 平成20年6月24日(水) 開通後 平成20年8月27日(水)

3) 北陸地域の周遊交通（休日）

- ・ 東海地域から北陸地域への休日の周遊交通は、開通前後で約1.2倍増加しており、特に愛知県からの交通は約1.6倍に増加しています。（図1参照）
- ・ 各路線の開通前後の利用状況を比較すると、開通前は国道41号を利用して行き来している交通が多かったが、開通後は東海北陸道への転換が見られます。（図2参照）
- ・ 開通前後で交通が増加しているルートの子籍地構成を比較すると、東海地域の交通が開通前に比べ大幅に増加しています。（表1参照）

東海北陸道を利用した周遊交通への転換

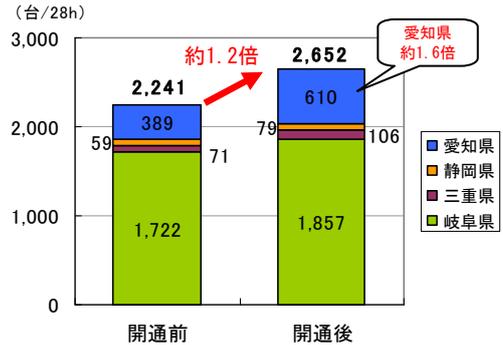


図1 北陸・東海地域を流動する東海地域車両の変化（休日）

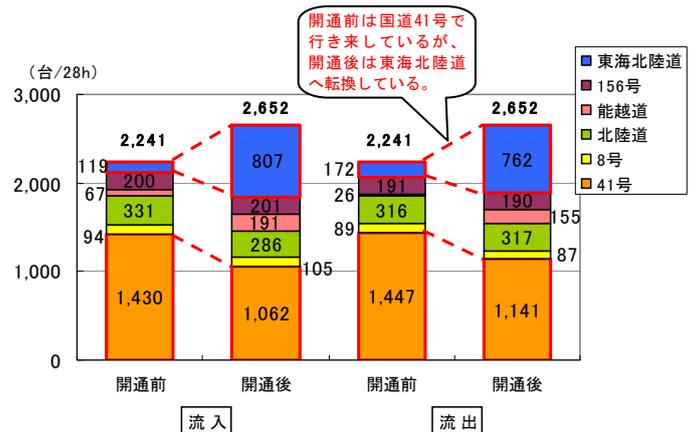


図2 東海地域車両の路線別の北陸地域への流出入（休日）

※上記交通量は、ある車両が観測6地点（東海北陸道、北陸道、能越道、国道8号、国道41号、国道156号）のうち、2地点を通過した東海地域の車両の開通前後の台数を示している。
 ※流入：北方向、流出：南方向（能越道は逆）
 ※東海地域車両（愛知、岐阜、三重、静岡県内の車両）

表1 周遊交通の変化（車籍地別） ※位置図の開通後ルートに対応

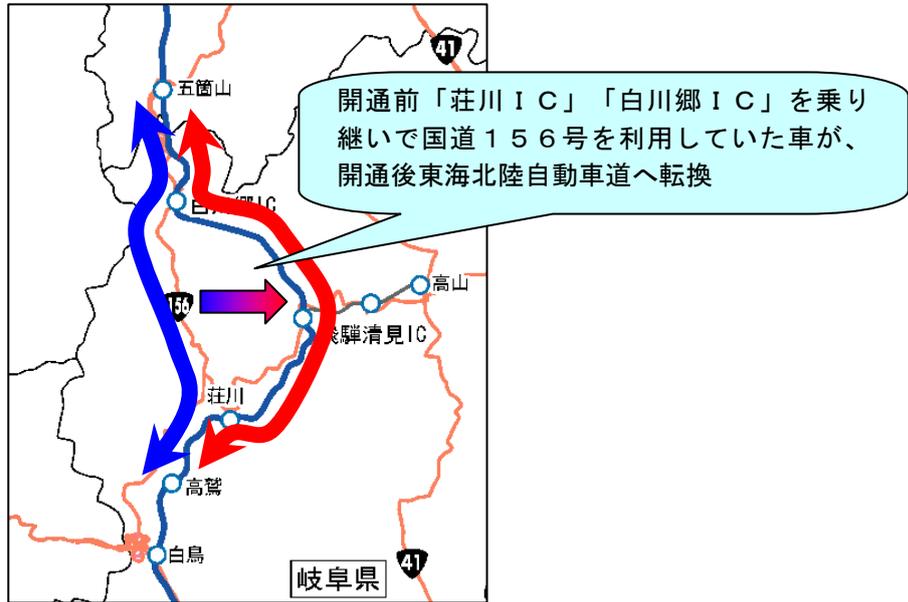
	①東海北陸道・156号 ⇄ 北陸道・8号	②東海北陸道・156号 ⇄ 能越道	③東海北陸道・156号 ⇄ 41号
休日	<p>東海 約2.6倍</p>	<p>東海 約5.1倍</p>	<p>東海 約2.5倍</p>

※車籍地：北陸（石川、福井） 東海（愛知、岐阜、三重、静岡） 信越（新潟、長野）

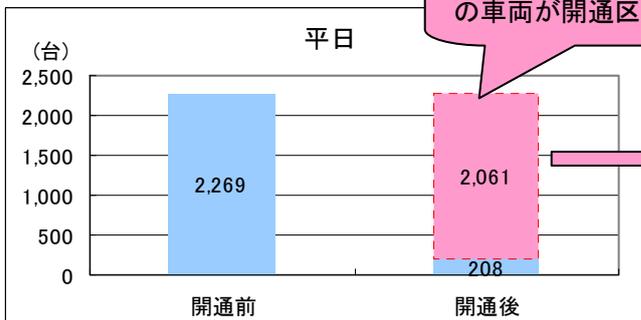
4) 国道156号からの転換

- ・ 開通前に「荘川IC」「白川郷IC」を乗り継いでいた車両の約9割が、開通後、東海北陸自動車道開通区間に転換しました。
- ・ 転換した車両のうち、休日のバスの割合が約3割と高く、効果的な運行に寄与しています。

国道156号乗り継ぎ利用の9割が開通区間へ転換

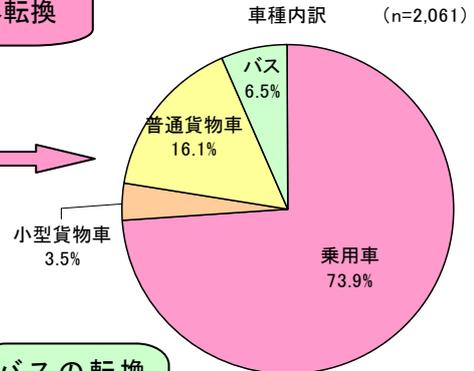


【開通区間への転換車両】

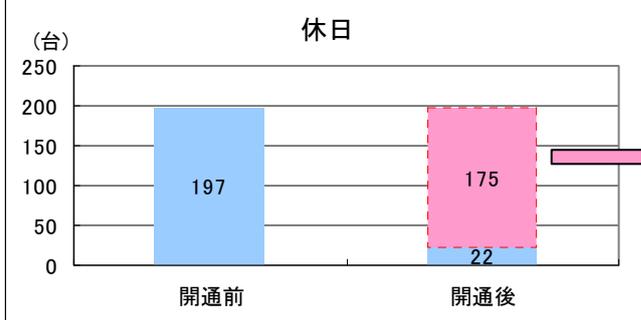


平日、休日ともに約9割の車両が開通区間へ転換

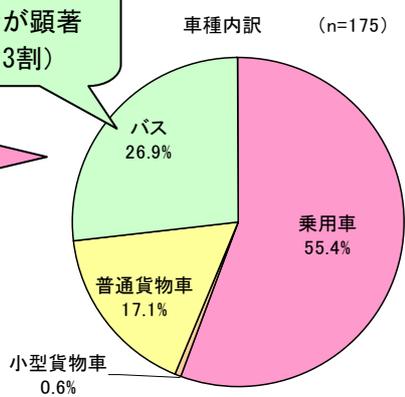
【転換車両の車種構成】



■ 荘川IC、白川郷ICを乗り継いだ車両 ■ 開通区間へ転換した車両



バスの転換割合が顕著 (約3割)



■ 荘川IC、白川郷ICを乗り継いだ車両 ■ 開通区間へ転換した車両

※) 開通前 平成20年6月1日(日)～平成20年6月7日(土)までのデータ
 開通後 平成20年8月24日(日)～平成20年8月30日(土)までのデータ